

市町村名	伯耆町
取組の名称	学校、地域と連携した食に関する取り組み

1 ねらい

伯耆町教育委員会が定めている第二次伯耆町教育振興計画の中には、知、徳、体のバランスのとれた教育の推進に関する取り組み方針が示されており、栄養教諭等における食育の充実に積極的に取り組むことと定められている。

食に関する児童の実態を見ると、ほとんどの児童が朝ごはんを食べているが、食べない日がある児童もいること、バランスのとれた朝食の工夫ができていない家庭は6割であること、個々に食べられる量に差があるなどの課題があることから、食に関する指導も計画的、継続的に行っていく必要がある。

そこで栄養教諭を中心に食に関する指導を各教科、領域に関連づけながら継続的に実施することで、各教科等の充実に図るとともに、望ましい食生活の実践につなげていきたいと考えた。また、地域と連携した給食の提供や食に関する取り組みをすることで生産者への感謝の気持ちや地元への愛着を育むことをねらいとして次のような取り組みを行った。

2 日時、場所、対象

令和5年度に伯耆町内小学校で行った。

3 具体的な取組内容

(1) 食に関する指導の充実

① 4月に町内各校給食主任宛てに昨年度の食に関する指導の取り組み内容とともに「食に関する指導の計画的な実施について(お願い)」の文書を発出した。

② 次のような各教科等に関連させた食に関する指導を行った。※は、関連する教科等

○小学校2年生(給食時間)「夏野菜を食べよう」※生活科「大きなあれわたしの野さい」

夏野菜を育てている時期に、夏野菜の特徴や栄養などを知らせ、野菜を食べる意欲をもたせた。

○小学校4年生(給食時間)

「ふるさとの食を伝えよう」

※国語「ふるさとの食を伝えよう」

鳥取県の特産品や郷土料理について紹介した。

○小学5年生(給食時間)「食事をおいしく食べよう」

※家庭科「食べて元気に」

だしについて学習する時期に、基本の5味や、食事をおいしく食べる工夫について紹介した。

○小学5年生(給食時間)「和食の良さを知ろう」

※国語「和の文化について調べよう」

国語で和の文化を学習する時期に、和食が世界から認められた理由を紹介し、和食の良さを伝えた。

○小学校6年生(学級活動)「よりよいおやつを取り方を考えよう」

※保健体育「生活のしかたと病気～生活習慣病の予防～」

おやつに含まれている砂糖の量や、適正な摂取量を知らせ、よりよいおやつの食べ方を考えた。



血管模型



(2) 地域と連携した食に関する取り組み

① 交流給食、生産者の方との交流

コロナ禍でしばらくできていなかったが、生産者を招待し、給食週間に交流給食を実施した。



生産者との交流給食



大山乳業さんとの交流

② 生産者見学、啓発資料作成

地場産物の活用と周知をはかるため、生産者の圃場へ見学に行き、給食だよりや掲示資料で啓発を行った。また、以前から地域で行われている社会科見学などの地域の方との学習の時間に栄養教諭も参加させていただき、生産者や児童と交流した。



児童と一緒に収穫体験



給食だよりで紹介



白ねぎ、人参農家の方の紹介

③ 町栄養士や地元ケーブルテレビとの連携

給食人気メニューの作り方を撮影し、地元のケーブルテレビで放映した。また、町栄養士と連携し、親子料理教室を行った。



給食人気メニュー動画の一部



親子料理教室

4 成果と課題

食に関する指導の充実については4月に食に関する指導の計画的な実施についての文書を発出したことにより町内での取り組みが共有され新たな教科等の授業依頼があり、食に関する指導の回数が増加した。また、給食訪問では、町内6校に出向き、担任等と児童生徒の実態や指導内容を情報交換する中で、教科等の学習内容と合った指導回数が増えていき、児童生徒の深い学びにつながった。その他にも動画撮影の依頼や動画でのインタビューなど、ICTを使った児童の主体的な取り組みもあり、それを他校に共有することでICTの活用の充実をはかりながら指導を行うことができた。これは兼務校が複数ある栄養教諭だからこそできる強みである。今後も児童生徒の実態にあった指導になるように指導内容の工夫・改善を行っていきたい。

地域と連携した食に関する取り組みについては、ここ数年コロナ禍で実施できなかった交流給食などを徐々に行うことができるようになり、生産者と触れ合うことで給食や地元食材を身近に感じる事ができた。今後も地域の良さが感じられる食の取り組みを効果的に取り入れることができるよう考えていきたい。また、学校と給食センターだけでなく、他機関とも連携した取り組みを実施することができ、町内での食育推進体制の構築につながっている。今後も各関係機関と連携を深め取り組んでいきたい。

5 おわりに

今後は、学校、地域だけでなく、家庭を巻き込んだ食育を推進するため、今年度の取り組みを工夫改善しながら継続していくことで食育を推進していきたい。